

Form 3

Date (日付)

18/11/2009 (Date/Month/Year:日/月/年)

Activity Report -Science Dialogue Program-
(サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書)

Fellow's name (参加外国人研究者氏名): Marek Bundzel (ID No. P08701)

Participating school (参加機関(受入学校名)): Takasaki High School

Date (実施日時): 14/11/2009 (Date/Month/Year:日/月/年) Time: from 9:30 to 16:30

Lecture title (講演題目): (in English) On Computational Intelligence

(in Japanese) 計算機知能

Lecture summary (講演概要):

Explanation on artificial intelligence, computational intelligence, artificial neural networks, evolutionary computation, artificial life and evolutionary robotics was given.

Language used (使用言語): English

Lecture format (講演形式):

○Lecture time (講演時間) 60 min (分), Q&A time (質疑応答時間) 80 min (分)

○Lecture style (examples: used projector, conducted experiments)

(講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、プレ実験など))

presentation with projector, videos

○Interpreter (example: assistance by host or colleague, provided Japanese explanation by yourself)

(通訳 (例: 受入研究者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明))

assistance by colleague

Name and title of assistant (協力者 職・氏名) (example: host or colleague)

Dr. Shingo Nakamura, colleague

○Other note worthy information (その他特筆すべき事項):

Impressions and opinions of assistant (協力者から本事業に対する意見・感想等がございましたら、お願いいたします。):

今回はこのようなプログラムに、参加できたことを嬉しく思います。協力者としての参加でしたが、私自身も大変楽しむことができ、このような企画をしてくれた JSPS の皆様には大変感謝いたします。

人工知能・ロボティクスという専門性の高いトピックでしたが、フェローが丁寧な説明を行ったとはいえ、高校生の英語の聞き取り能力の高さに驚かされました。ただし、会話をするのは難しいところがあり、「恥ずかしい」「怖い」といった、日本人特有の英語に対する苦手意識が見えてしまったことは残念ながらです。もっとこのようなプログラムを数多く行い、外国人とコミュニケーションを取らせ、まずは外国人への抵抗感を無くすことが大事だと思います。その上で、高校生が科学技術分野での英語の重要性を認識してくれれば十分なことだと思います。